

第 20 号

発行日 令和2年2月21日
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
 理工学部同樹会 (理工学部内)
 題字 同樹会長 千葉 信行
 印刷所 株 笹 軽 印刷

理工学部同樹会報

人と風



(令和二年 理工学部自然エネルギー学科卒業)

笹沼 菜々子

なりました。

同樹会の皆様、ご健勝のことと存じます。さて、皆さん、「自然エネルギー」または「再生可能エネルギー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。一度は聞いたことがある方がほとんどだと思います。私、令和二年三月に弘前大学理工学部自然エネルギー学科の第一期生としての卒業生になります。第一期生として申し上げます。第一期生ということですので、当然先輩もいませんし、先生方も弘前に着任されて間もない方もいらっしゃるし、不安がある中でスタートでしたが、ある意味で自分たちの代が先頭を切っているという前向きな気持ちにも

私の大学生活を振り返ると、青森県でできないことをさせていただいたなど感じております。サークル活動では、お囃子サークル「弘大囃子組」に所属し、ねぶた祭りに参加するだけでなく地域のお祭りに参加したり老人ホームに訪問したりと、演奏を通して地域の方々と接する機会が沢山ありました。また、アルバイトではリンゴのもぎ取りや梱包作業などをする中で、農家の方々の苦労や想いを聞くことができました。私の出身地、千葉県ではできない貴重な体験をする中で、青森県の方々の温かさに接することができました。

過程でどれだけ無駄を省き、効率を上げることができるのかについて、講義の内容を参考に、何人かのグループに分かれて議論をし、発表をしました。また、自然現象がもたらすエネルギーを使う「再エネ」で知られている太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、波力発電、地熱発電などについて、それぞれの専門の先生方の講義を受けながら理解を深めていきました。入学当初は、日本は自然が豊かで「再エネ」がもっと普及してもいいはずなのに単純に考えていましたが、学習を進めていく中で、様々な要因が絡み合っていることがわかりました。エネルギーは、人類が生きていく中で欠かせないモノであることは言うまでもありませんが、それを生み出す際のコストがかからないようにする工夫において、需要と供給の問題や政策との絡みなど、自分が想像していなかったような問題が潜んでいることに驚きました。

来年度からは、この四月に新設される地域共創科学研究科に進学し、青森市の地域戦略研究所にて研究に邁進してまいります。私の研究は、「風」をテーマに青森県沿岸の風況調査です。具体的には、青森県周辺の沿岸に設置されている灯台からの風向、風の強さのデータを分析し、風力発電設備を設置するための下準備をするというものです。三年生の後期からゼミに所属し、本格的に風力発電について勉強してみると、なんと北東北、北海道が国内で特に風が強い地域とされ、青森県・秋田県・北海道合計の風力発電設備容量が日本全体の1/3となっていて、今後は風力発電は陸だけでなく海へと拡大し、日本の大きなエネルギー源になるといわれています。

授業では、後輩に当たる三年生の学生と共にテキストを使って学び、質疑応答を交えながら理解を深めています。ここ青森県がもつ「風」という資源を存分に生かし、エネルギーを生み出すことで、青森県がより活性化できればと考えています。

風力を学ぶ学生が国内で少ないということで、これから益々注目される分野だと思われ、その期待にこたえられるように精進していきたく思います。

定年退職教員

令和元年度末をもって、物質創成化学科 糠塚いそし教授、自然エネルギー学科 石山新太郎教授の二名の先生方がご退職されます。ご退職の先生方におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げますとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、先生から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。

退職にあたって 徒然思い浮かぶこと

理工学研究科
(物質創成化学科)
糠塚 いそし



私は、一九八三年六月に理化学部化学科に採用していただ

き、その後三十六年余の長きにわたりお世話になりましたが、一九七七年に同学科を卒業した理工学部同樹会の正会員でもあります。学生時代には多くの友人達に恵まれ、共に学びました。教養部の古びた校舎での講義など今でもありありと思い起こされます。

母校の教員となつてからは、旧理学部同窓会や化学科の同窓会(弘化会)の活動にも携わり、同窓会名簿を定期的に作成しておりました。個人情報保護が厳しくなつた昨今からみれば、まさに隔世の感があります。旧理学部同窓会は理工学部同樹会に引き継がれ、継続的に活動されていることはうれしく思います。一方で、SNSが広がっている現在においては、会員相互の親睦を目指した同窓会活動も曲がり角に来ているように思えます。

大学は、学部改組、外部評価など様々な場面で卒業生とのつながりや支援を必要としています。その際同窓会の活動に頼ることも多いのですが、同窓生との連絡は途絶えがちです。大学としても、卒業生個人へのきめ細やかで

持続的な情報発信を広報の一環として行い、教育効果の自己評価のためにも卒業生との連絡を保ち続ける必要がある、というのが私の持論です。

閑話休題・最近の話題の一つに、PISAのテストで読解力の世界順位が急落したというのがあります。国語力の低下に関しては、ずいぶん前から理系の大学教員の中にも危機感があり、入試制度が変更されるたびに、国語教育をしっかりとしてほしいとの声が聞こえていました。結局、度重なる「改革」でも事態は改善されなかったということです。法人化後の大学を取り巻く環境の変化は激しく、自戒も込めていえば、最近は何に對してもそんなものかと受け止めるようになってしまいました。したが、足元を見つめ直す必要がありそうです。

私の専門は分析化学です。分析化学の目的は、物質を化学分析する方法を組み立てたり、そのために必要な物質を作ったりすることです。ある著名な分析化学者は「分析化学には〈場〉が必要である」というようなことを述べてい

ます。私流に解釈すれば、化学分析のためのオリジナルな〈場〉を持つてば、オリジナルな化学分析法を得ることができるといふことでしょうか。このような〈場〉を求めつつ、固相吸光度法、固相抽出―電熱原子吸光度法、モノリスシリカ薄膜と研究を進めてきました。講座や研究室所属となつた大学院生・卒研生の皆さんと共に実験を行い、試行錯誤が多い中でも有意義な時間が過ごせたと思つています。首尾良く新しい分析法が完成した折には、実試料のサンプリングに学外まで足を伸ばしたことは楽しい思い出となつていきます。

今振り返れば、何事に関しても、もう少しスピード感があれば良かったのかなと思つています。マイペースでやらせてもらっているうちに定年を迎えることになりました。今後は、一同樹会会員として皆様と共に母校を見つめていきたいと思ひます。

弘前大学理工学部における 就職支援について

平成三十一(令和元)年度
理工学部就職対策委員会委員長
伊東 俊司

理工学部学生の就職率は平成三十年三月の卒業生ではじめて一〇〇%を達成しました。平成三十一年三月の卒業生ではこれをわずかに下回つてしまったものの高い就職率を維持しています。これは本学理工学部が進めてきた「キャリア教育」とともに卒業生の社会でのご活躍とご支援の賜物と深く感謝しているところです。また、昨年も書かせていただきましたが、一昨年、日本経済新聞に採用を増やしたい大学第一位としても紹介されるようにもなりました(平成三十年六月六日二十七面)。

就職率が例年高い数字を維持できていることは喜ばしいことですが、この数値は、昨年度無事に本学を卒業し、就職を希望した学生に対しての値であり、留年など正規の年限で修了に至らない学生が少



なからずいるのが現状です。今後、さらなる教育の質の向上を目指していかなければならないものと感じているところです。

ここでは、本学理工学部での最近の就職支援について、いくつかをご紹介させて頂くことといたします。

本学理工学部は、平成二十八年四月、「安全・安心な持続可能な社会の構築」および「グローバル社会に向けた理工系人材の養成」という二つの柱をたて、新学科(自然エネルギー学科)の設立および既存学科の改組を行いました。これに伴い、これまで教養教育や専門の学習など学問分野の教育と共に、新たに「自らの生き方をみつけ、実現する力」を育成するために、すべての学生が必ず受講する必修科目として「キャリア教育(必修四単位)」が導入されました。本年(令和二年)三月には、本学の新たな「キャリア教育」を修得した初めての卒業生が社会へ、また、大学院進学などの道を歩むことになっております。また、これに合わせて、本年(令和二年)四月には、本学大学院理

工学研究科博士前期課程の改組を予定しており、理工学部との連携がより深まった理工学専攻として「数物科学コース」、「物質創成化学コース」、「地球環境防災学コース」、「電子情報工学コース」、「機械科学コース」、「自然エネルギーコース」の六つのコースで新入生を迎えることになりました。これにより学部と大学院博士前期課程との一貫した教育体制が形づけられることになっております。

本学における「キャリア教育」も、実施の開始より四年目を迎え、さらに充実したものととして、令和二年度よりカリキュラムの見直しが行われることになっており、ますます充実した内容となっていくものと感じているところです。一度、本学の「キャリアセンター」のホームページを訪れてみてください。就職ガイダンス・セミナー、学生の就職・進路相談、学内個別企業等説明会、インターンシップなど様々な学生への支援の一部をご覧いただけるものと思います。

個別の企業等からの求人には、理工学部で置かれた就職

対策委員会のメンバーである各学科就職担当教員が対応しております。各学科就職担当教員が、指導教員(担任・研究指導)による指導と共に個別にキャリア支援を行っているところです。

また、令和元年度には、五月の「就活総まとめ講座(就活スケジュールを含めた就活のすべて)」、「職業選択総まとめ講座(職業選択を通じたキャリアパスの形成)」の二つの講座を皮切りに、七月頃からは「学科単位での就職ガイダンス」が実施されています。後期には、十一月の「就活実践講座(この時期から準備しておきたいWEBテスト・面接対策)」で就活の本番へ向けた準備、十二月には本学の卒業生に来学いただき実体験を聞く「OB・OG講演会(就活をどのように乗り越えたか)」の機会を設けました。

年明けの一月には「企業人による講演会(企業が求める人材像“働く”とはどういうことか? 学生とどう違う?)」として企業の人事担当の方にお越しいただき講演を実施しました。さらに一

月には、博士後期課程修了学生による「OB・OG講演会(博士後期課程進学をどう考えたか)」も実施しております。博士後期課程まで進学する学生はまだ少ないものの、研究者として社会で活躍する卒業生の実体験を聞くことができる貴重な機会となりました。

このうち「OB・OG講演会」と「企業人による講演会」の開催には、理工学部後援会からのご援助、博士後期課程修了学生による「OB・OG講演会」の開催には、弘前大学後援会からのご援助をいただいきました。さらに、本年度初めての試みとして、一年生向けに学科単位で博士前期課程を修了した修了生にご来学いただき一年生向けの「OB・OG講演会」を実施いたしました。この開催には、弘前大学基金からのご支援をいただきました。このような講演会は、地域柄このような機会の限られている本学の学生にとって非常に有益である反面、実施には多くの費用が掛かります。皆様方のご支援に深く感謝を申し上げます。

平成三十年度(平成三十一年三月卒業)の理工学部の学科別、大学院博士前期課程のコース別の進路状況は次のページの表のとおりです。就職先の企業名を含めた最新の情報については、理工学部／理工学研究科のホームページ、「キャリアセンター」のホームページでもご確認いただけます。今後とも大学・学部として学生のキャリア支援をしっかりとサポートしていく所存です。今後とも卒業生の皆様方にはご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理工学部／理工学研究科ホームページ

<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/>

就職情報(卒業後の進路、最近の主な就職・進学先など)

キャリアセンターホームページ

就職データ集、求人のための弘前大学案内など

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/shushoku/publication.html>

表1 平成30年度(平成31年3月)理工学部卒業生の進路集計

	数理科学科	物理科学科	物質創成化学科	地球環境学科	電子情報工学科	知能機械工学科	合計
進学	6	12	29	13	23	33	116
農業・林業	0	0	0	0	0	0	0
建設業	0	0	0	6	1	1	8
製造業	2	5	5	2	6	8	28
電気・ガス・熱供給・水道業	0	1	0	1	0	0	2
情報通信業	7	6	2	5	16	2	38
運輸業・郵便業	0	1	0	2	1	1	5
卸・小売業	0	1	0	0	1	0	2
金融・保険業	3	0	0	4	2	0	9
不動産業	0	0	0	0	1	0	1
飲食・宿泊業	0	0	0	0	0	0	0
医療・福祉	1	0	0	0	0	0	1
公務員	8	6	4	16	0	4	38
教員	5	2	0	1	0	0	8
その他の産業	1	3	1	4	2	2	13
未就職・その他	7	5	1	4	4	0	21
計	40	42	42	58	57	51	290

表2 平成30年度(平成31年3月)大学院博士前期課程修了生の進路集計

	理工学専攻							合計
	数理科学コース	物理科学コース	物質創成化学コース	地球環境学コース	電子情報工学コース	知能機械工学コース	新エネルギー創造工学	
進学	0	2	0	1	0	0	0	3
建設業	0	0	1	0	1	0	0	2
製造業	0	3	17	0	7	25	2	54
電気・ガス・熱供給・水道業	0	1	0	0	0	1	1	3
情報通信業	0	7	0	5	10	0	0	22
運輸業・郵便業	0	0	0	0	1	0	0	1
教員	0	0	0	0	0	0	0	0
公務員	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の産業	0	0	3	3	1	3	0	10
未就職・その他	0	1	1	0	0	0	0	2
計	0	14	22	9	20	29	3	97

紙上職場訪問(12)

車をつくる、
数多の知識・ノウハウ

アイシン・ソフトウェア(株)

基盤技術開発部

先進開発グループ

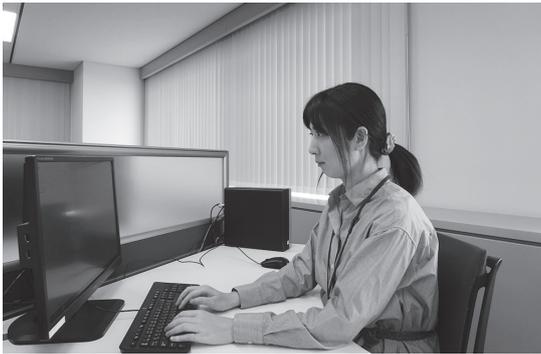
石黒 智子

(平成二十一年 理工学研究科
電子情報工学専攻博士前期課程
修了)

同樹会会報第二十号発行に
あたり、お慶び申し上げます。

私は十年前に弘前大学大学院を修了し、アイシン・コムクルーズ(現アイシン・ソフトウエア)に就職いたしました。当社は設立初期から盛岡市内にも開発拠点を有しており、東北圏内で就職したいという私の希望をかなえられる可能性が高いことから、志望し、採用されました。就職後は、開発本拠地のある愛知県での二年間の勤務を経て、現在は盛岡開発センターに勤務しております。

当社は自動車に搭載されている様々なシステムを設計、



開発するアイシンググループのソフトウェア専門会社です。オートマチックトランスミッションなどのパワートレイン、パワースライドドアなどの車体システム、ブレーキや駐車支援などの走行安全システム、そして、カーナビゲーションに代表される情報システムなど、携わる製品領域は多岐にわたります。特に駐車支援システムは、バック駐車の手軽なお客様をアシストするために、バックカメラで駐車したい場所を決め、その後のステアリングの操作を自動化するという画期的なシステムで、トヨタ自動車様の二代目プリウスに採用され市販さ

れておりました。私が就職する前から世界初のシステムとして注目されており、アイシンググループの高い技術力も当社を就職先として選んだ決め手の一つでした。

さて、当社の開発の本拠地は愛知県ですが、盛岡の他、札幌、福岡にも開発拠点があります。遠隔でも効率の良い開発ができるように、ITシステムを活用しております。私の場合、就職後は愛知県で車載OSの設計プロジェクトに参加した後、量産段階の製品ソフトウェア開発を担当しました。先に紹介した駐車支援システムの開発を一部継続しつつ盛岡に転勤し、バックドアの自動開閉やステアリングの自動位置調整などの車体領域製品の開発にも携わってきました。転勤後は、盛岡開発センターの先輩社員から必要な製品知識を伝授され、必要に応じて愛知県への短期出張でノウハウを得たのち、盛岡に戻って開発をすることもあります。現在は、有望視されている先行技術や、ソフトウェア開発の効率化技術などの研究が主要な役割です。さらに、技術研究とその実用化

に向けて、研究、開発の両方に携わってきた経験を活かして、技術研究内容を製品開発の現場へスムーズに移管するための橋渡しも担当しております。

様々な製品開発や研究に携わっていると、それまで会社や自分の中に蓄積されてきた知識・ノウハウがいかにかに大事なものであるか、身をもって感じる場面にはしばしば遭遇します。弘前大学在学中に習得したノウハウが活用できることも多く、例えば、ソフトウェアが期待どおりに動かなかったときには、講義で習ったコンピュータ演算のしくみやアセンブリ言語、OSの知識が解決の糸口になりました。数学や統計学の知識は、技術研究の内容理解のほか、当社全体の業務効率化を検討した時にも活用しました。大学院に進学し研究を長く行ったことで、研究の一連の流れ、技術文書の書き方、論理的なストーリーの立て方もより深く学び体験することができ、これらはビジネスのどんな場面でも効果を発揮しております。弘前大学および弘前大学大学院に進学し、本当に

よかったと、十年経った今でも実感しております。

かつて、走る・曲がる・止まるだけの「モノ」として私たちの生活の一部を担っていた自動車には、駐車支援やドア・ステアリングの自動制御など、ヒトが快適に過ごせる「コト」が求められる時代になりました。最近では、ヒトの代わりに自律走行する「自動運転」もメディアで度々話題にのぼり、快適に目的地までたどり着ける「コト」へのニーズが高まっています。それができる未来をつくるには、まだまだ数多の知識やノウハウが必要です。

今日も私たちがつくった車が走る姿を見かけては、やりがいを感じつつ、盛岡で未来をつくる勉強をしております。より良いモビリティ社会の実現に向けて、新しい価値を生み出す「ものづくり」の実現に向けて、これからも邁進いたします。



弘前大学 創立七十周年報告

二〇一九年、弘前大学は創立七十周年を迎えました。つい先日、理学部創設から五十年の記念事業を終えたばかりと感じますが、それは平成二十七（二〇一五）年のことであり、まさに光陰矢の如しです。

大学創立七十周年記念事業は、前年の平成三十年に行われた記念ロゴマーク制定にはじまり、メインイベントである令和元年六月一日開催の式典等祝賀行事を経て、年間を通して行われた学生参加事業の終了まで、各事業が盛大に開催されました。

ご支援ご参加いただいた同樹会員各位には、心より感謝申し上げる次第です。なお、同樹会を含めた各学部等同窓会で構成される弘前大学同窓会も、記念事業の支援をいたしました。

記念事業の詳細については、令和二年三月一日発行の弘前大学同窓会報に、創立七十周年記念事業報告が掲載されておりますので、是非ご覧いただければと思います。

平成三十年度 工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会

平成三十一年三月二十二日、平成三十年度工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催いたしました。前々回から引き続き、同樹会として「卒業・修了生の皆さんをお祝いしよう」との想いから、今回も卒業・修了生全員の祝賀会参加費を無料として開催いたしました。今回は過去十年間の祝賀会で最多の百三十名の参加をいただき盛会となりました。なお前回からの新しい取り組みとして、スマートフォンによる写真撮影等をはじめとする昨今の写真撮影や写真配布の在り方を鑑み、加えてより気軽に参加いただける雰囲気づくりを考慮して、集合写真撮影ならびに写真プリントの配布を取りやめ、スナップ撮影を行うこととしております。スナップ写真のいくつかを以下に掲載しますのでご覧ください。



学 生 表 彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです（平成三十一年二月以降）。今後とも学生の活躍にご期待ください。

- 理工学研究科博士前期課程（知能機械工学コース）
秋元史也（二年）
第321回計測自動制御学会東北支部研究集会 優秀発表奨励賞を受賞
- 理工学部知能機械工学科
畑澤研太（四年）
第66回応用物理学会春季学術講演会 Poster Awardを受賞
- 理工学研究科博士前期課程（知能機械工学コース）
成田海斗（一年）
日本混相流学会混相流シンポジウム2019 ベストプレゼンテーションアワードを受賞
- 理工学研究科博士後期課程
王ジン（二年）
令和元年度化学工学学会横浜大会学生賞を受賞
- 理工学研究科博士後期課程
王佩芬（一年）
令和元年度化学工学学会横浜大会学生賞を受賞

- 理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）
佐々木俊太（一年）
日本セラミックス協会ガラス部会夏季若手セミナー 優秀ポスター賞を受賞

- 理工学研究科博士後期課程
安萍（二年）
The First International Symposium of Yong Scholars on Carbon Resources Conversion (YSCRC-2019) ベスト発表賞を受賞

- 理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）
葛西孝己（二年）
The 22nd Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Information Technologies(SASIMI 2019) Outstanding Paper Awardを受賞

- 理工学研究科博士後期課程
Asikaer Anniwaer（一年）
第7回アジアバイオマス科学会議 優秀ポスター発表賞を受賞
- 理工学研究科博士後期課程
雨澤勇太（一年）
国際誌 Earth, Planets and Space 誌の2019年ハイライト論文として表彰

平成30(2018)年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

平成31年3月31日

◆一般会計

収 入	支 出	繰 越
5,045,620	989,358	4,056,262

◎収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	3,880,616	3,880,616	0	平成29年度より
会 費	1,500,000	1,100,000	△ 400,000	正会員 110人 学部 1年 (31年度入学) 52人 520,000円 〃 1年 (30年度入学) 26人 260,000円 〃 2年 2人 20,000円 〃 3年 1人 10,000円 〃 4年 22人 220,000円 院生 1年 5人 50,000円 〃 2年 2人 20,000円 〃 後期課程 0人 0円
卒業・修了祝賀会当日会費納入分	75,000	65,000	△ 10,000	教員等 26人 65,000円
雑 収 入	100	4	△ 96	預金利息
計	5,455,716	5,045,620	△ 410,096	

◎支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	平成30年度負担金
印 刷 費	299,000	261,576	△ 37,424	会報第19号 1,500部 (247,860) 払込取扱票印字印刷 2,000枚 (13,716)
卒業・修了祝賀会費	324,000	305,492	△ 18,508	卒業・修了祝賀会経費 (240,492円) 卒業・修了祝賀会当日会費 (65,000円)
写 真 代	0	0	0	卒業・修了祝賀会記念写真代
通 信 ・ 運 搬 費	50,000	30,882	△ 19,118	加入案内送料 (研究科新入生) (5,320円) 未加入者へ加入案内送料 (学部4年) (25,480円) 会報送料 (82円)
会 議 費	10,000	774	△ 9,226	お茶代
事 務 費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	6,284	△ 13,716	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	19,500	12,350	△ 7,150	会費払込手数料 (110人)
予 備 費	4,361,216	0	△ 4,361,216	
計	5,455,716	989,358	△ 4,466,358	

◆特別会計

収 入	支 出	繰 越
5,001,133	0	5,001,133

◎収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	5,000,708	5,000,708	0	平成29年度より
雑 収 入	500	425	△ 75	預金利息
計	5,001,208	5,001,133	△ 75	

◎支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	5,001,208	0	△ 5,001,208	
計	5,001,208	0	△ 5,001,208	

令和元(2019)年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

平成31年4月1日

◆一般会計

◎収入の部

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	4,056,262	3,880,616	175,646	平成30年度より
会 費	1,500,000	1,500,000	0	正会員 150人×@10,000円 学部 1年 110人 〃 2年 5人 〃 3年 5人 〃 4年 20人 院生 10人
卒業・修了祝賀会費	75,000	75,000	0	30人×@2,500円
雑 収 入	100	100	0	預金利息
計	5,631,362	5,455,716	175,646	

◎支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	平成30年度負担金
印刷費	285,000	299,000	△14,000	会報第20号 1,500部×@190円
卒業・修了祝賀会費	351,000	324,000	27,000	130人×@2,700円
写真代	0	0	0	
通信・運搬費	50,000	50,000	0	加入案内送料(研究科新入生) 100人×@120円 加入案内送料(学部学生4年) 250人×@140円 会報送料他(3,000円)
会議費	10,000	10,000	0	
事務費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消耗品費	20,000	20,000	0	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	27,000	19,500	7,500	会費払込手数料 150人×@180円
予備費	4,516,362	4,361,216	155,146	
計	5,631,362	5,455,716	175,646	

◆特別会計

◎収入の部

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
繰越金	5,001,133	5,000,708	425	平成30年度より
雑収入	500	500	0	預金利息
計	5,001,633	5,001,208	425	

◎支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
特別事業他	0	0	0	
予備費	5,001,633	5,001,208	425	
計	5,001,633	5,001,208	425	

編集後記

平成十七年度より幹事を務めております一様です。

一面にて、新しい学科「自然エネルギー学科」の第一期卒業生となる笹沼様から、後に続く後輩へ大変励みになるご寄稿をいただきました。

ご退職の糠塚先生から、時代に応じた同窓会の在り方や、同窓会と大学との連携模索についてご提言がありました。

伊東就職対策委員長から、理工学部の就職支援のひとつとして、卒業・修了生（OB・OG）による支援も大変重要であるとの紹介がありました。

アイシン・ソフトウェア盛岡開発センターの石黒様から、在学中の学びが最先端の開発現場で生きていることのお話がありました。

平成三十年度の祝賀会は大変盛会となり、在学生も勉学において活躍しております。

同樹会員ならびに同樹会運営にご協力くださる皆さまにおかれましては、今後とも同樹会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

役員一覧

副会長 千葉 信行
会長 山上 佳男
幹事 一條 健司
(理工学研究科助教)

監査 荒木 宏孝
(弘前大学生活協同組合職員)
須藤 勝弘
(理工学研究科教育研究支援室)

名誉会長 佐藤 裕之
(情報連携統括本部技術専門職員)
顧問 藤博 雄
(理工学研究科長・理工学部長)

宮 永 崇 史
(前理工学研究科長)
吉 澤 篤
(元理工学研究科長)

南 村 隆 夫
(元理工学研究科長)
本 瀬 香
(弘前大学名誉教授)

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司
住所：〒036-8561
弘前市文京町三
電話：0172-39-3660
E-mail: ken@eit.hirosaki-u.ac.jp
URL: http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/